

# 平成23年度 病害虫発生予察情報

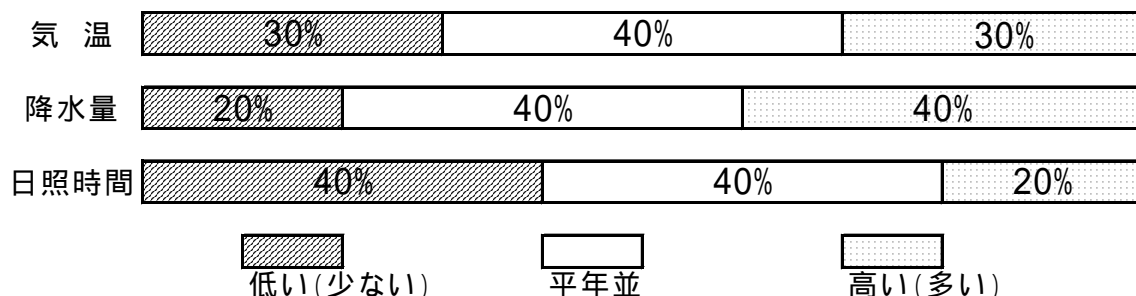
## 発生予報第6号(8月)

平成23年7月27日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない		
		紋枯病	少ない		
		白葉枯病	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	少ない		
		トビイロウンカ	やや少ない		
		コブノメイガ	やや少ない		
		斑点米カメムシ類	やや多い~多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	少ない
				シンクイムシ類	平年並
ハダニ類	平年並				
カメムシ類	少ない				
うどんこ病	やや少ない				
カキ	カキミガ		平年並		
	カメムシ類		少ない		

中国地方1か月予報(7月23日~8月22日・広島地方気象台7月22日発表)  
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

発生量

予報の根拠

県内全域

やや少ない

7月下旬に行った定点調査(70圃場)における葉いもちの発生量は発生圃場率12.9%(平年33.0%)、発病株率5.3%(平年18.9%)と平年に比べてやや少ない。

なお、上記圃場を含めた県内360圃場における葉いもちの発生状況は、中山間部で発病程度のやや高い圃場が散見されたものの、全般の発生量は発病株率が4.0%と近年の状況と大きく相異しない(次頁表参照)。

8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

表 近年の葉いもち発生状況（7月下旬調査）と穂いもちの発生概況

年次	調査場所	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)	発病株率(%)	発病度	穂いもち概況	穂いもち被害面積率(%)
H23	県東部	230	30	13.0	5.0	1.2		
	県西部	130	8	6.2	2.3	0.6		
	県全体	360	38	10.6	4.0	1.0		
H22	県全体	360	53	14.7	6.4	1.7	やや少	0.9
H21	県全体	360	34	9.4	1.8	0.5	やや少	1.4
H20	県全体	360	56	15.6	5.2	1.4	やや少	2.0
H19	県全体	360	59	16.4	5.2	1.3	やや少	1.7
H18	県全体	360	23	6.4	1.7	0.5	少	0.2
H17	県全体	360	12	3.3	0.9	0.2	少	0.1
H16	県全体	360	252	70.0	46.5	13.5	やや多	10.9
H15	県全体	355	175	49.3	23.5	6.8	多	36.0

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

7月下旬の定点調査における発生圃場率は8.6%（平年34.9%）、発病株率は1.0%（平年6.3%）で、全般の発生量は平年に比べて少ない。

8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 平年並

予報の根拠

全般の発生量はほぼ平年並みである。

8月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。

7月下旬の巡回調査では、捕獲数は9.5頭（平年19.8頭/25株）、発生圃場率は92.3%（平年70.7%）で発生量は平年並みである。

8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

予察灯への飛来は6月下旬～7月上旬に認められたが、以降まとまった飛来は認められない。7月下旬までの誘殺数は平年に比べて少ない。

7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.3頭（平年29.9頭/25株）、発生圃場率は23.1%（平年79.6%）で発生量は平年に比べて少ない。

8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

予察灯への飛来は7月下旬まで認められない。

7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭（平年0.06頭/25株）、発生圃場率は0%（平年4.2%）で発生量は平年に比べてやや少ない。

8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

予察灯への飛来は7月下旬まで認められない。

7月下旬の巡回調査では被害株率0%（平成3.7%）、発生圃場率は3.8%（平成19.0%）で発生量は平年に比べてやや少ない。  
8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや多い～多い  
予報の根拠

7月下旬に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、発生圃場率は81.0%（平成：72.3%）、平均頭数は8.3頭/20回振り（平成：6.4頭）で平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシである。予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は171頭（7月第4半句まで累積、平成101.3頭）で平年に比べてやや多い。  
8月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 少ない  
予報の根拠

6月27日の巡回調査では、発病葉率は2.7%（平成6.6%）であり、平年と比べて少ない。  
8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

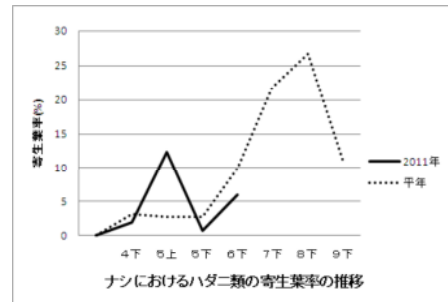
予報内容  
発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 やや遅い  
発生量 平年並  
予報の根拠

フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや遅く、誘殺数は平年並みである。  
向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容  
発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並  
予報の根拠

6月下旬の巡回調査では寄生葉率6.0%（平成9.9%）で平年並みである。  
向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。  
クワオオハダニが見られる圃場も散見されます。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 少ない  
予報の根拠

予察灯（出雲市）での7月5半句までの誘殺数は82頭（平成1548.7頭）で平年に比べ少ない。  
8月の気象はカメムシ類の発生を抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 やや少ない  
予報の根拠

7月25日の巡回調査では、発病葉率は0.7%（平成5.6%）であり、平年と比べ

てやや少ない。

8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ(第2世代)

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

予察灯(出雲市)での7月5半旬までの誘殺数は82頭(平年1548.7頭)で平年に比べ少ない。

7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果を確認していない。

向こう一か月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を!

- ・ 農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する。
- ・ 防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

葉いもち情報

フジコナカイガラムシ防除適期の予想

ウンカ情報

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougai tyuu/>